

●都市エリア型(発展)(平成21年～25年度)

十勝エリア

食の機能性・安全性に関する高度な技術開発とその事業化によるアグリ・バイオクラスターの形成

URL: http://www.tokachi-zaidan.jp/t-cityarea_new/

参考機関 (太字は核となる研究機関)

産…日本甜菜製糖、コスモ食品、日本ハム、
エーエムアール ほか
学…**帯広畜産大学**、静岡大学、名寄市立大学、
岐阜大学 ほか
官…**とち財団**、
農研機構北海道農業研究センター ほか

本事業のねらい

十勝地域は全国有数の農畜産物の生産基地で、「フードバレーとちかち」を旗印に19市町村が一体となり「食」と「農林漁業」を中心とした地域産業政策を展開しています。「とちかちABCプロジェクト」はアグリ・バイオクラスターの基盤形成による「食の価値を創出する」取組として、加工副産物や農作物からの機能性素材の製造と解析、食品の安全性を確保するための新検査技術の開発を行い、「動物・食品検査診断センター」の設置・運用を進めています。

事業成果

食品の機能性・安全性に関する研究・開発



① 健康機能性・利用特性を活用した商品群



② 動物・食品検査診断センターの外観

【食品の機能性・安全性評価システムの構築】

地域において、1) 健康機能性・利用特性の解析、2) 抽出・製造技術の開発、3) 安全性試験の実施、4) ヒト介入試験による検証、といった一連の流れによる食品の機能性と安全性を評価するシステムを確立しました。素材・食品開発や食品の安全性の確保において、大学、公設試、企業、病院、地域住民が参加し、産学官「民」といえる連携体制を構築しています。

① 健康機能性・利用特性を活用した商品開発

製造技術、利用特性、健康機能性の研究を行ったベタイン、イヌリン、小豆ポリフェノール等の素材を活用した商品展開が進んでいます。北海道3拠点(札幌、函館、帯広)での取組や、静岡県との地域間連携を新商品開発へとつなげています。地域での商品開発力が着実に向上し、新商品開発や既存商品の品質改善の機運が醸成されています。

② 動物・食品検査診断センターの設置

平成26年に帯広畜産大学において、食の安全性を担保する役割を担う「動物・食品検査診断センター」を設置しました。検査部門が独立して強化され、検体の一元管理を行います。検査業務の国際認証の取得を目指しており、外部から検査依頼を本格的に受け付ける運用の準備を進めています。動物衛生・食品衛生の研究・教育の場として、人材育成・卒後教育の役割も担っています。

製品化実績等

商品化58件、起業1件の成果があります。「抹茶オーレH&S・小豆オーレH&S」は静岡県との連携から製造が始まり、「牛肉のからすみ・牛とろの熟成パテ」ほかは全国各地での表彰を受ける商品となっています。

今後の市場規模(見込み)等

平成25年までの累計で、健康機能性・利用特性を活用した開発商品の売上額は10.1億円、素材を活用した末端商品の全国への展開はおよそ33億円と推計されます。今後も安定した市場規模の維持が期待されます。